

令和3年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
1 経営	<p>【評価する点】</p> <p>休館中のため、ホール内活動ができなかった一方で、地域の学校との連携による活動数が確保されました。MM21地区との連携が確保された点は望ましい方向性に進んでいると思われました。新生ホールのコンセプトやロゴマークが作成されたことは大事だと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>再開場後に、ホールの経営に総合的な推進力が求められていくものと考えます。コンセプトやロゴマークづくりが今後浸透していくように望みたいと思います。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>約1年半という長期休館であったが、そうした期間を活用して様々な取組、特に財団所管他施設との連携プロジェクトや教育機関との協働・連携、また職員の参加によるMMホール独自の価値の見直しを踏まえた新しいコンセプト策定など、評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>専門性を高める取組について、人材配置や研修等努力は見られるが、この長期期間ならではのものが若手職員1名の神フィルへの半年間派遣だけ(?)というのはちょっと寂しい(海外研修等もっと大胆なことができなかったのか?)</p> <p>また長期休館中に取り組んだ事業のうち、今後の通常運営においても継続すべき(できる)もの、例えば地域の他施設や教育機関等との連携プロジェクトなどについて、どう継続・発展させていくか、更なる取組を期待したい。</p> <p>MM21 ミュージックシティ構想についてのビジョン策定についても、中核的施設として積極的な取組を期待する。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>令和3年度は大規模改修による長期休館中となり、その中で指標が基本方針である市内各所で事業を展開し豊かな音楽社会を拓くコンコンサートホールとしての存在感を示すことを前提に目標をたて実施し、目標以上に実績を達成したことを評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>事業と重複</p>	<p>【評価する点】</p> <p>財団内の他施設やMMH周辺機関・団体との連携が進捗したと思います。教育機関へのアウトリーチ活動も活発に行われました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>財団内他施設との連携について、効果を検証した上で、さらに進めてもらいたいと思います。</p>	<p>【評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●リニューアルオープンを機に、新たにスローガンとコンセプトを策定し、ロゴマーク、ロゴタイプを刷新した。 ●『ホールが持つ機能を最大限発揮し、音楽文化を通じて都市活性化に寄与し、地域社会に貢献する』とした目標実践を踏まえ、長期休館中も企画制作面の専門性を発揮し、財団所管他施設との連携やアウトリーチ事業に取り組んだ。 ●『専門人材の充実』を図るべく、若手職員の芸術団体への研修派遣を行った。 <p>【更なる取組を期待する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ホールの「自己同一性」の宣言であるコンセプトの周知に遠慮が見られる。ウェブサイトの「当館について」の「コンセプト・施設概要」のページデザインのせいかもしれないが、せっかく1年かけて策定されたコンセプトがページのボディコピー(解説文)のように見える。Webのお知らせ欄では22年4月1日付でシンボルマークの変更が告知され、その策定までの経緯が読めるリンクが張ってあるが、その直近のプレスリリース(リニューアルラインアップの発表)で、シンボルマークの変更やコンセプトの策定についての言及がほとんどないのもいささか残念なことであった。 ●上記2点目を継続することは行政評価でも求められている。「2事業」に上がる政策目標にも叶う活動ではあるので、継続を望むが、ホール再オープン後、「みなとみらいホール」を本拠とする事業と並行して、こうした活動を続ける体制づくり(人員の適正な配置、組織内分業の棚卸しと組織変更も含む業務分掌の見直し)を早急に行うことを期待する。 ●ホール運営を行う事業体として、主催公演を中心とする事業以外の活動にどの程度のリソース(人的、金銭的)を配分できるのかを明確にし、横浜市が示す政策評価目標に対して、実効性ある事業計画を示すことを期待する。 ●「2事業」の業務を見る限り、閉館中とは思えない密度と頻度で活動が行われているにも拘わらず、この実施にあたり、運営チーム、広報チーム各1名減員している。財団組織全体の人繰りの都合もあったと推察するが、ワークフォースの増減は、文化芸術機関の現場においては、プロセスと結果の質の維持の可否に直結する。慎重を期すべきである。

令和3年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
2 事業	<p>【評価する点】</p> <p>多様な連携先との協働事業がおこなわれていることが素晴らしいと思います。2年計画の18区コンサートを企画実施されたことは、拠点となる大規模館が、芸術団体との協働で、市内各所の鑑賞環境に目配りをする姿勢をとられたことが興味深いです。多岐にわたる事業展開が計画、実施されており、さらに開館後の展開に期待いたします。コロナ禍におけるウェブ展開は他館にも大いに刺激を与えるものとなりました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>各地への出張事業が館の確実な集客につながっていくことが望めます。また、こうした事業が市内各地のニーズの把握につながればよいと思います。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>長期休館中の事業として18区コンサートをはじめとする市内各地での事業展開や、会場を替えてのJust Composedやミュージック・イン・ザ・ダーク等の定例事業の継続など高く評価したい。</p> <p>また、中学生が事業の制作に係わってのこどもの日のコンサートは次世代育成の新たな試みとして評価するとともに、今後の展開にも注目したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>「横浜WEBステージ」は2年目になったが、通常活動に担ったときに向け、その狙い（コロナ禍で活動の場が減少しているアーティスト支援なのか、新たな音楽文化発信・普及事業なのか…）を明確にしていくことが求められる。</p> <p>また中学生プロデュース事業は新しい試みとして評価はするが、まだ試行錯誤段階なのかも一つコンセプトが定まっていらないように思えるので、これも更なる検討が求められる。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>実施した事業のうち横浜18区コンサートはみなとみらいホールを知らないお客さんに豊かな音楽社会を知る良い機会を与え、みなとみらいホールのPRになったと思います。</p> <p>こどもの日コンサートでは今までにはない企画中学生プロデューサー制度を実施しました。体験をした子ども達にとっては貴重な体験であったことでしょう。次世代をつなぐ担い手としてこの企画は評価します。</p> <p>市内の商業施設でのアウトリーチ事業も、クイーンズスクエア横浜だけでなく三溪園等での事業は休館中の強みを生かした事業展開だと評価します。又アーカイブ配信等みなとみらいホールの存在をPRできたこと評価します。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>令和3年度は休館中の中だからこそ実施できた事業が多数あると思います。その中で培われたことをリニューアル後も休業中と同じようにはいかないと思いますが、実施する事業の数は減るもののさらに充実した内容の事業を実施してほしいと思います。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>18区コンサートを始め、多様な音楽、新しい音楽を市民に浸透させる活動が展開されました。横浜市国際ピアノ演奏会は、リモート演奏を取り入れるという新しい試みがみられました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>18区コンサート等を活かした市民へのホールのPR活動の継続を検討していただきたいと思ます。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>●各政策目標に対応する目標の実践それぞれについて、休館中とは思えない密度で活動が行われている。専門性の高い人材が揃うみなとみらいホールの実力と実行力を十二分に示した。</p> <p>●継続が重要な事業（Just Composed、招待国際ピアノ、Super Big Band、Music in the dark）は他館を利用して行き、市内各所のオルガンを活用してのオルガン企画を実施する等、みなとみらいホールのプレゼンスを休館中も印象づける取組は評価に値する。</p> <p>●パンデミック禍での発信に貢献した「横浜Webステージ」が引き続き、新たな配信コンテンツを増やすとともに、教育プログラムをサポートする役割を果たす他、市内各所のフッテージを加えた高画質コンテンツの創作を行うなど、単に「ホールが提供する公演コンテンツ」を超えた活動を展開した。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>●『鑑賞以外でも芸術家や音楽を市民につなぐ人材の育成に取り組む』として上がっている事業が、鑑賞イベント（アウトリーチを含む）であることが気になる。「目標の実践」の書き方の見直しが必要ではないか。</p> <p>●「横浜Webステージ」は、コンサートホール事業の補完的プログラムを超える可能性を見せ始めている。行政評価で継続を求められているホール外の活動と併せて、みなとみらいホール事業全体で、どのように位置づけ、リソースのバランスをとるのかを検討してほしい。</p>
3 施設運営	<p>【評価する点】</p> <p>施設運営予約システムがウェブで可能になるとのこと、利便性が高まると考えます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>フォロワー数の激増など、好調なSNS戦略について、実際の観客数の増加につながるのかが課題となりそうです。その検証をおこなっていただければよいかと思ます。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>利用受付・予約の体制やシステムの見直し・WEB化、公式WEBサイトのタブレット対応、また友の会組織のWEB移行による無料化など、利用者の利便性を高めたことを評価したい。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>利用受付・予約のWEB化や、友の会の「ウェブフレンズ」への移行などによる、利用者や観客の今後の変化についてフォローし、その効果を検証していくことが望まれる。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>レブショールームの割引料金設定した事は割高と考えるのでしょうか？</p> <p>割安にした分お客様にアピールし広報等により使用率の増加につながるようよう務めてください。一般のお店の水道光熱費が去年より1.5倍上昇しています。施設の維持費が来年は相当増加すると考えます。</p> <p>このことを考慮して無駄な電気等の経費の節約を考えて施設の運営に取り組むことを期待します。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>リニューアル後に向けた運営システムの見直し、予約管理のWebシステムへの移行準備が進められました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>チケットの販売方法、販売のための広報活動の合理化、最適化をさらに進めていただきたいと思ます。</p>	<p>【評価する点】</p> <p>●休館を機に、施設運営方針、利用要項の改訂、施設管理システムの改修・強化に取り組んだ。</p> <p>●対顧客サービスの充実を図るための検討と計画策定が行われた。</p> <p>●ホールのブランディングを強く意識した広報面での取組みが行われた。</p> <p>●懸案の友の会組織のWeb移行が実現した。</p> <p>【更なる取組を期待する点】</p> <p>●上記取組みの結果を実践することになる次年度において、改訂・改修・アップデートの結果を丁寧な振り返りで自己評価し、次の前進につなげるフォローアップの道筋を明らかにしてください。特に、業務報告書で「計画策定済み」「改定・設計を行う」「見直した」等となっている部分は、次年度にその成否が問われると思ますので、次年度の業務報告でのリフレクションを期待しています。</p>

令和3年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
4 施設維持管理	<p>【評価する点】 特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 施設改修が終了後、維持管理に関しては、さらに10年後20年後を見越した計画づくりが必要になると思います。</p>	<p>【評価する点】 特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 収支とも関連するが、今後予想される光熱費の高騰に向け、省エネ対策・仕組みの検討が求められる。</p>	<p>【評価する点】 特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 スプリンクラーの事故についてニュースでも取り上げられました。あつてはならぬ事故だと思います。業者が悪いのか・管理が悪いのかわかりませんが、このような事故が二度と起こらないようにお願いいたします。</p>	<p>【評価する点】 仮事務所での運営では、とくに問題が生じなかったように思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にありません。</p>	<p>【評価する点】 ●長期休館中の管理において、過失事故が0件であった。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にありません。</p>
6 収支	<p>【評価する点】 休館中でありながら、文化庁補助金を獲得されたことは大いに評価されてよいものと思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 行政評価にもありましたが、一層の企業協賛の獲得など、収入の多角化は必須であろうかと思えます。</p>	<p>【評価する点】 休館中にも拘わらず、文化庁の支援事業に採択された（そうした事業を提案できた）点は評価したい。また自主事業収入も当初予算に対し増加できた点も評価できる。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にありません。</p>	<p>【評価する点】 休館中でも協賛金・助成金・寄付金の確保が予算額より大幅に上回りました。企業努力が表れていると思います。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 今年度自主事業収入が42,247,720とある。内訳としての市負担金アクションが3,000万となっています。令和2年度は1500万でした。推測ですが令和4年は1,500万に戻るのではないかと思います。自主事業費収支の差額を補うためにも、協賛金等の収入が欠かせないと思いますので、さらなる努力で確保していただきたい。 令和4年10月からインボイスが始まります。 消費税の負担を増やさないためには、2023年10月1日登録日として仕入業者が適格請求書発行事業者として登録されているかチェックを行ってください。</p>	<p>【評価する点】 文化庁より助成を受け、当初目標を上回るファンディングができました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 改修期間中のホール外活動の収支データを精査し、リニューアル後の運営データとして活用していただきたいと思えます。</p>	<p>【評価する点】 文化庁「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」に採択され、目標を大きく上回る実績を上げた。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にありません。</p>
7 組織	<p>【評価する点】 新井館長への交代はインパクトがありました。その効果は大きかったと思えます。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 専門性の確保が必須となりますが、ホール職員に望まれる専門性とは何かという点も、関係者の間で共有していく必要がありそうです。</p>	<p>【評価する点】 特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 今後音楽専用ホールに求められる「専門性」とは何か、について世界的・全国的・地域（首都圏/横浜市）的な観点から検討し、その上で長期的な人材確保や育成・研修等の計画を立ててほしい。</p>	<p>【評価する点】 特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 人材育成のため事業企画グループ職員の研修を積極的に行ってください。</p>	<p>【評価する点】 専門性を基本とした組織の編成が試みられています。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 外部機関での研修が、再開館後の運営で活用されることを期待しています。</p>	<p>【評価する点】 人材育成の面で、派遣研修を行うなど、休館〜リニューアル準備に並行して、意欲的な取組が行われた。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 職員のスキルアップと経験の定着のために、派遣研修を含めた人材育成計画を可能にする体制を整えることを期待します。また文化庁の在外研修などを活用し、若手職員が海外事例を直接知る機会を積極的に奨励し、グローバルな活動を展開しうる将来幹部候補の育成にも力を入れてください。</p>

令和3年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
5 その他・8 留意事項	<p>【評価する点】 特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 施設運営にかかる人材育成については継続的に おこなっていただきたいと思います。</p>	<p>【評価する点】 特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 現在、全国的に多くの文化施設は大規模改修や 建て替え等で長期休館となるケースが増えている。 今回の1年半に及ぶみなとみらいホールの、 休館中に取り組んだ活動（施設コンセプトの見直し から、他施設を利用しての事業の継続、アウトリー チの強化、人材育成・組織強化等まで）は、こ うした全国の文化施設に対して極めて好ましい事 例となると思われる。ぜひ、全国の同様な状況に ある文化施設のためにも、休館中に取り組んだこ とや新たに気づいた課題などについて、記録にま とめておいてほしい。</p>	<p>【評価する点】 特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にありません。</p>	<p>【評価する点】 施設設置主体である横浜市と連携しつつ、大規 模改修作業が進められました。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 特にありません。</p>	<p>【評価する点】 特にありません。</p> <p>【更なる取組を期待する点】 リニューアルオープン後ホール利用者の指摘 により撤去した上席客席の落下防止柵が、どのよ うな経緯で設置されることになったかを明らか にし、記録に遺し、かつ公開することを強く望む。 改修工事は横浜市が行ったものだが、ホール内の 改変にあたって、指定管理者に意見の聴取はあっ たのか。客席からの舞台ビューは、クレームの多 くが集中することもあり、ホール関係者であれ ば、当然一番気を遣う類のものだった。 事後の対応については、設置者と指定管理者が 素速く対応し、問題の深刻化、慢性化を防いだ点 は評価する。この事案を寧ろ好機とし、横浜方式 の指定管理者制度の運用を有名無実化しないよ うに、日常的な協議連絡を実効のあるものとする 見直しと、現場職員間、管理職間の親睦をはかり、 横浜市の文化政策を共に語り、共に実現する志気 の醸成にますます努力してほしい。 事案そのものは22年度に起きたことではあ るが、改変は改修期間中に行われたものだと思う ので、本年度で取り上げるべきものと思考する。</p>

令和3年度横浜みなとみらいホール指定管理業務評価表（外部評価）

	石田委員	伊藤委員	田中委員	丸山委員長	箕口委員
総括	<p>長期休館中でありつつ、さらにコロナ禍により停滞した舞台芸術活動を、ウェブの活用により大胆な事業展開を実施して、他各館や自治体などからも注目される存在となりました。コロナ禍における迅速な対応が適切に、そしてインパクトをもっておこなわれた成果は大いに評価できるものだと思います。子どもたちの鑑賞機会の確保もウェブコンテンツの利活用をおこなうなど、適切な事業展開となったと考えます。ホールが休館中であっても、活動を止めない事例として他館の参考にもなるものでした。</p> <p>また、地域連携は地元企業、地元芸術団体、教育機関などとの間で実現されていました。会館が再開場してから後も、そうした関係性が確保し続けられることを期待いたします。次世代のアーティスト、観客の育成、市内外の各地からのアクセシビリティの確保、あるいはアウトリーチの実施なども、活動を止めないホールの姿を様々な形で提示する意味でも、必須だと感じています。</p>	<p>長期休館中であつたにもかかわらず多様な事業や経営見直し等に取り組んだことは高く評価したい。こうした取組の多くは、これからの時代においては専門的組織としての音楽ホールの重要な任務だと言える。しかしながら通常運営に戻ると、予算的にも人材面でもホール施設の運営（事業・施設管理等）で手がいっぱいになり、なかなか手が回らず困難になる可能性が少なくない。そのため市と協議して、財団内に教育普及や地域連携のための特別チームを設けるなど、その任務を専門とする組織なり部門を確立していく必要がある。</p>	<p>長期休業に加えてコロナで二重の難題を抱えたうえでの営業となりました。</p> <p>しかし、コロナ対策はもちろんのこと、長期休業を基本方針の理念の再認識する良い機会であり、事業展開もその理念に基づいて行っていることが読み取れました。</p> <p>この休館中において、今までにない繋がりや経験も数多くあったと思います。</p> <p>みなとみらいホールが、通常業務になったことにより時間と人との配分を考えると、休館中に行ってきた事業に制限がかかると考えられます。</p> <p>今後は、休業中に行ってきた事業のための専門のチームを作り、運営を行っていくべきだと考えます。そのための人材確保・予算の確保、そして横浜市との一層の連携が必要です。</p>	<p>コンサートホールの運営活動という本来業務を行えない事業年度であり、外部評価も、通常の事業年度とは異なる側面に焦点をあてた評価となりました。リニューアル後の事業運営に向けた準備作業が適切に行われていることが確認できました。外部から見て、政策目標間の整合性が高まって来たのではないかと印象を持ちました。</p> <p>令和3年、社会・経済環境としては、新型コロナ禍でみなとみらい地区への来街者は大幅に減少しましたが、地区の開発は順調に進み、事業所・店舗の開設が相次ぎ、就業者数は10万人を超えるほどになっています。みなとみらいホールの公共ホールとしての役割に対する期待も高まってくると思います。</p>	<p>長期休館中でホール本拠の事業はなかったとはいえ、これだけの質量の「課外事業」を展開したみなとみらいホールは、その地力において屈指の企画制作力を持つ専門性の高い芸術事業団体であることを端なくも内外に示すことになりました。文化庁「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」に採択されたのも、この実力の成果と言えるでしょう。横浜市の行政評価も、子どものための事業、アウトリーチ、他施設連携、学校の文化系部活動支援等への積極的関与を継続することを求めています。これだけのクリエイティブ・コレクティブを抱えたコンサートホールへの期待が高まるのは当然でしょう。</p> <p>他方、ホール内で立ち上げたワーキンググループが纏め新たなホールのコンセプトとして掲げた内容は、「音楽を身近に感じ、親しむ機会をつくる場所」「“みなとみらい”という唯一無二のロケーション」を強く意識し、ホール本拠の事業展開を自らのアイデンティティとしています。コンサートホールにおける企画制作を軸として始まった事業体としては自然な自己理解であり、ここに拠って立つことが創造の源泉でもあるからです。</p> <p>ホール開館から25年。長期休館のこの年度ほど、ホールに今求められている役割が、この四半世紀で大きく変わったことを浮き彫りにした一年ではなかったのではないのでしょうか。</p> <p>みなとみらいホールは、もはや単なる公演会場venueではなく、横浜市における音楽芸術の展開拠点であり、事業体 presenting entity であり、クリエイティブ集団であるという役割を担うことも期待されているようです。</p> <p>さて、みなとみらいホールはそれを担える体制を整えることができるのでしょうか。担うとしたら、何をどのようにしたらよいのでしょうか。横浜市はその役割をみなとみらいホールに担わせる覚悟と支援体制を整える準備が出来るのでしょうか。今回の指定管理者業務評価表を読むほどに、かなり画期的な未来の可能性がそこここに見え隠れします。</p> <p>横浜市の芸術文化施設のフラッグシップとして、全国の芸術文化施設の先頭に立つ組織として、その矜持と意地をかけて、21世紀の第2四半期の芸術文化の在り方のロールモデルとなるべく、これからの展開に期待します。</p>

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について: 目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

令和3年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
1 経営 (1)政策目標(経営) 施設が持つ機能を最大限に活かし、総合力ある経営を行う	横浜市の文化政策を実現化するため、専門人材の充実と適切な配置による組織体制の強化に努める。 またホールが持つ機能を最大限発揮し、音楽文化を通じて都市活性化に寄与することで地域社会への貢献度を高める。	(ア)組織内連携と経営強化 ■専門性が発揮できる体制づくり	実施	実施	■MMHに期待される専門性が発揮できる人材配置を行うとともに、財団内の専門人材研修や外部研修などを通じ、専門性の維持向上に努めました。 若手職員1名を神奈川フィルハーモニー管弦楽団に半年間研修派遣。オーケストラ運営、公演制作等について実地で学びました。ここで得た学びと人脈を、令和4年度のリニューアル公演制作に活かします。	【成果】 長期休館中ということから運営チームと広報チームの職員をそれぞれ1名ずつ減員する体制としました。 事業面では市内文化施設における多様な公演事業に丁寧に取り組む、運営面では再開館後を見据えた運営方法の変更、公式ウェブサイト更新など長年の課題を解決する取組みを組織横断的に進めました。 リニューアルオープンに向けたコンセプト、スローガン、シンボルマークの策定にあたっては事務局を挙げて取り組み、財団他施設職員の意見や専門会社のアドバイスを心得て策定を進め、4/1に「横浜みなとみらいホール」独自の価値を表現するコンセプトとシンボルマークを発表しました。 財団他施設との連携について、杉田劇場で継続して取り組んでいる「杉劇リコーダーズ」との連携や、「ミュージック・イン・ザ・ダーク」を初の和楽器で実施するなど、各施設の特徴を活かした連携をはかることができました。 教育機関との連携についても、市内学校へのアウトリーチ事業は、小中学校・特別支援学校合わせて10校で実施し、学校での芸術体験の場を例年以上に創出できました。 【課題】 財団の強みを生かした施設連携や、学校等へのアウトリーチ・連携などは、リニューアル後も継続的に実施していくべきものと考えています。	【評価できる点】 大規模改修による長期休館中に、施設の強みや特性を活かし、他施設との連携による事業展開やアウトリーチ事業に取り組んだことを評価します。 また、ウェブサイトの更新やリニューアルオープンに向けたコンセプト、スローガン、シンボルマークの策定など、施設課題に組織横断的に取り組まれたことを評価します。 【更なる取組を期待する点】 他施設との連携やアウトリーチ事業について、ホール以外の場での発信や芸術体験の場の創出になると考えられますので、引き続き、取り組まれることを期待します。 また、施設内での横断的な取組については、今回のプロジェクトに限らず、日頃から情報共有を図り、日常業務も含めて、意識して取り組んでください。
		■経営力を高めるブランディングの推進 調査・分析により、強みと方向性を明確化	実施	実施	■プロジェクト会議を実施し、令和4年度のリニューアルオープンに向けたコンセプト、スローガン、シンボルマークを策定しました。		
		(イ)財団全体での総合力発揮 □財団所管他施設との連携事業実施	2プロジェクト	3プロジェクト	A		
(ウ)社会的協働・連携による取組 □教育機関との協働・連携企画	2件	3件	A	□10-2月 教育プラットフォーム学校プログラム(市内小学校及び特別支援学校 8校) □12/5 ミュージック・イン・ザ・ダーク(東京藝術大学、筑波大学附属視覚特別支援学校) □3/6,12 吹奏楽部応援プロジェクト!(浦島丘中、田奈中)			
(2)政策目標(経営) みなとみらい21地区及び都心部の活性化及び都市の魅力づくりに寄与する	周辺の商業施設、専門文化施設間の連携を一層強化し、来館者や来街者が「ホールのある街」を実感できるよう努める。	(ア)MICE利用の誘致 □パシフィコ横浜との連携事業	年1回	1回	□12/17 お城EXPO2021 前夜祭プレミア前夜祭(東京都交響楽団のメンバーによる特別編成「NINJA BRASS」による金管五重奏コンサート企画協力)	【成果】 パシフィコ横浜からの要請に応える形で3回目の開催となりました。今年もコロナの影響下での実施となりましたが、事前の期待感や事後の好意的な評価がSNSを通じて多数発信され、当館の認知の裾野を広げるとともに、パシフィコ横浜のと関係性も強化されました。	【課題】 MM21ミュージックシティ構想の目指す姿は未だ検討中です。
(ウ)MM21文化施設間連携の展開 ■みなとみらい21ミュージックシティ推進検討会の構成メンバーとして、連携のイメージを具体化	実施	実施	-	■MM21ミュージックシティ構想検討会の構成メンバーとして参画しました。			
2 事業 (1)政策目標(事業) 市民が多様な音楽に親しむ機会を提供し、音楽文化を支える裾野を広げる	長期休館を好機ととらえ、様々なアプローチによる音楽事業で市民生活の中に音楽を根付かせる	(ア)各区・区内文化施設と連携、企画制作する鑑賞事業 ●横浜18区コンサート(2年計画) □会場:各区の区民文化センター等	9区実施	10区実施	□2年計画の1年目に当たる令和3年度は、10区において開催しました。 ・9/14 青葉区、9/16 金沢区 萩原麻未(Pf)×横浜シンフォニエッタ(弦楽五重奏) ・11/17 栄区、11/18 瀬谷区 山根一仁(Vn)×新日本フィル(弦楽五重奏) ・1/12 保土ヶ谷区、1/13 磯子区 辻彩奈(Vn)×神奈川フィル(弦楽五重奏) ・1/27 鶴見区、1/28 泉区 福岡洸太郎(Pf)×日本フィル(弦楽五重奏) ・3/1 港南区、3/2 旭区 實川風(Pf)×ハマのJACK(弦楽五重奏)	【成果】 「横浜18区コンサート」では、各地域の小規模な会場に合わせ、通常オーケストラ編成の協奏曲を弦楽五重奏版で構成しました。来場者アンケートでは、オーケストラとはまた違った聴き応えを感じていただけのお客様や、各区の会場に初めて訪れた方が平均50%程ということもあり、横浜18区を知る良い機会となった、という声を多くいただきました。各区とも後援や広報協力といった連携ができ今後にもつながるものとなりました。 「こどもの日コンサート」では、中学生が事業の企画・構成から広報・プログラム製作までに携わる「中学生プロデューサー」制度を取り入れました。43名もの中学生が参加し、中学生ならではの企画やアイデアを取り入れ、また出演にも中学生ソリストを迎え、少年少女合唱団の映像出演など、子どもたちが創りあげるコンサートになりました。	【評価できる点】 コロナ禍において、公演実施に制約が多い中、各基準に臨機応変に対応しながら、運営を行ったことを評価します。 事業では、施設や学校と連携し、各区や学校など様々な場での公演や事業を行い、webコンテンツ配信を含め、ホール外でのアウトリーチ事業を展開し、ホールのPR及び音楽に触れる機会を創出しました。 さらに、こどもが公演製作に携わる場を設けることで、実体験による、次世代育成の場を創出しました。これらの事業を休館中に工夫しながら事業展開したことを評価します。 【更なる取組を期待する点】 こども向けの体験型の事業については、体験に留まらず、こども達が考えるきっかけとなる事業を引き続き継続できるよう、期待します。 施設、学校及び都市との連携については、みなとみらいホールのPRIに繋がるほか、ホールにとっても新たな視点や刺激を得ることのできる良い機会となることを期待します。 また、各事業において、参加者の反応や声などを把握し、課題を洗い出し、フィードバックすることで、今後の事業に活かしていくことを期待します。
		□顧客満足度	80%	93.8%	A	□顧客満足度93.8%	
		□合計入場者数	2,250人	1,761人	C	□合計入場者数の目標達成率78%	
		(イ)公演制作に市民が携わり、生活の中に音楽を根付かせる ●こどもの日コンサート □会場:神奈川県立青少年センターホール ■中学生が企画・制作に携わり、公演や演奏家、お客様をつなぐ役割を担う	2公演	2公演	B	□5/5 横浜みなとみらいホールPresents こどもの日コンサート2021 若村力(指揮)、神奈川フィル他 ■令和3年3月より「中学生プロデューサー」の本格活動開始、コンサートを制作しました。新型コロナウイルスの感染予防の観点より、当日のコンサート運営を予定していた参加者の活動について、客席からの観覧に変更しましたが、目標通り2公演を実施しました。	
		□顧客満足度	80%	95.6%	A	□顧客満足度95.6%	
□合計入場者数	700人	687人	B	□合計入場者数の目標達成率98.1%			

令和3年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
(3)政策目標(事業) 次代を担う芸術家、音楽と市民をつなぐ人材を育み、活動の機会を提供する	若い音楽家の育成や支援を取組む。	(ア)若い音楽家の育成や支援 ●「横浜18区コンサート」「Just Composed」等への登用 □若手アーティストの登用	8人	9組 (8人+1グループ)	A	□目標を上回る数の若手アーティストを起用しました。	【成果】 「横浜18区コンサート」では、ソリストに近年の横浜市招待国際ピアノ演奏会出演者や横浜文化賞文化・芸術奨励賞受賞者等を起用し、横浜の広い地域のみならずアーティストを知っていただくという趣旨でも取組みました。横浜出身でも初めて訪れる区もあつたり、アーティストにとっても新鮮な場となりました。また、弦楽五重奏版で取組むコンチェルトにも新しい音楽へのアプローチや発見につながったと言えます。 「みなとみらいSuper Big Band」では、まん延防止措置期間も長く、活動が制限されましたが、秋には多くのイベントに参加させていただき、若さ溢れる演奏は各所で大きな声援をうけるバンドに成長しています。3月の単独コンサートでは、400名を超えるお客様を迎え、10曲を演奏できる実力も備えることができました。今年度は、卒業生が演奏させていただくイベントもあり、卒業後の活動支援にもつながっています。 「吹奏楽部応援プロジェクト」は、今年度の新規事業で、ぼんだウインドオーケストラが市内中学校の吹奏楽部を訪れ、演奏指導を行い、未だに以前のような活動が行えていない吹奏楽部の生徒たちに、演奏技術の向上だけでなく、演奏や合奏の楽しさをより知ってもらう取組となりました。プロの指導を学校で受けられるという貴重な体験が今後の部活動への意欲や演奏への取組方などにもつながるよう今後も展開できればと思います。 「横浜市招待国際ピアノ演奏会」は、昨年予定していた4名のピアニストの出演が実現しました。各関係機関との調整を密に行い、来日できたピアニストもあり、また、1名はディスクラヴィアによるリモート演奏となり、リアルとバーチャルが融合した演奏会は、コロナ禍の時代の一つの演奏会の手法を提案するものとなりました。とは言え、長い歴史のある本演奏会を楽しみにしているお客様に、今後国内外で益々活躍するであろう3名の生のピアノ演奏をお聴きいただけたこと、将来ピアニストを目指す子どもたちとの交流の場を提供できたことは、大きな成果と言えます。 【課題】 次世代育成については、若手人材の起用を念頭に、将来を見据えて今後も継続的に実施して参ります。
		●「Just Composed」での作曲家育成 関連プレートも実施 □若手作曲家の登用	1名	1名	B	□山本哲也 1名登用、新作を委嘱しました。	
		(イ)一流奏者の指導を少年期から体験させる ●「みなとみらいSuper Big Band」 ■単独コンサート、地域イベント参加 □中高生の参加人数	40人	40人	B	■3/18 単独コンサート 実施 ■地域イベント参加 ・9/12 ジュニア・ジャズ・フェスティバル金沢2021(オンライン出演) ・10/10 横濱JAZZ PROMENADE(オンライン出演) ・10/24 アートフォーラムあざみ野 ロビーコンサート ・11/3 かわさきJAZZ 2021 ・11/20 クイーンズスクエア横浜 MUSIC DAYS「Autumn Jazz Live」 ・3/21 吉野町市民プラザ「スプリングコンサート」 □SBBには40名の中高生が参加しました。	
		●吹奏楽部応援プロジェクト ■中学生を横浜市内の吹奏楽団等が指導し、合同演奏会を実施 □「吹奏楽部」ワークショップ実施	2校	2校	B	■新型コロナウイルス感染症の状況に鑑み、合同演奏会の実施は見送りとなりました。 □吹奏楽部応援プロジェクト！ ぼんだウインドオーケストラメンバーによる吹奏楽ワークショップ 3/6 浦島丘中、3/12 田奈中	
		(ウ)ピアニスト育成 ●第39回横浜市招待国際ピアノ演奏会 ■子ども交流会も実施し、相乗効果を図る □会場:神奈川県立音楽堂	実施	実施	-	11/6 第39回横浜市招待国際ピアノ演奏会 ■11/5 関連企画「ピアニストってどんな人？」(小・中学生対象 出演者との交流会) ■11/7 クンシュトフ・ヤブウォンスキ特別レクチャー「スケールとアルペジオ ～そのミッションとは～」	
	□若手ピアニスト起用	4人	4人	B	□4人の若手ピアニストによる演奏会を実施。 桑原志織/ケイト・リウ/ジャン・チャクムル/ダニエル・チョコバヌ		
鑑賞以外でも芸術家や音楽と市民をつなぐ人材の育成に取組む。	(エ)芸術家や音楽と市民をつなぐ人材の育成 ●音楽大学・NPO・企業との連携事業 □提携事業数	5事業	6事業	A	□目標を1事業上回りました。 事業名/連携団体 ・三溪園観月会/(公財)三溪園保勝会 ・横浜市芸術文化教育プラットフォーム/NPO法人STS ポット横浜、横浜市教育委員会、横浜市文化観光局 ・ミュージック・イン・ザ・ダーク®/東京藝術大学COI拠点 ・お城EXPO2021プレミア前夜祭/(株)横浜国際平和会議場 ・金沢区音楽振興事業「若林 顕/鈴木 理恵子 ピアノ・ヴァイオリンコンサート ～きらめく音色のプレゼント～」/ 横浜市金沢区役所 ・大佛次郎記念館サロンコンサート/共同電子エンジニアリング(株)		

令和3年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
(4)政策目標(事業) 未来を担う子どもたちに音楽を知り、学び、体験することができる機会を設ける	鑑賞・体験・制作参加など、多感な子どもたちに様々な音楽体験の場を提供し、創造性、表現力、豊かな感性を育成する	(ア)公演の企画・制作に携わる ●こどもの日コンサート ※再掲 □公演数	再掲	2公演(再掲)	B	□2公演実施(2-(1)-(イ)参照)	【成果】 「こどもの日コンサート」の“中学生プロデューサー”は、「プログラム製作」「構成台本」「広報」「レセプション」の4グループに分かれて活動し、様々な角度から中学生の視点を取り入れました。6回の活動で、感染症の影響でオンラインでのミーティング参加となることもあり、またそんな感染症の影響があるからこそこのコンサート創りといった検討も生じ、ひとつのコンサートを創りあげる苦労や学びを体験する機会を大きく提供するものとなりました。 【課題】 中学生プロデューサーの展開を継続していく仕組みづくりを検討していきます。
		□中学生プロデューサー	15人	43人 (第2期27人)	A	□中学生プロデューサー 43人参加 ※R4に向けた第Ⅱ期募集を行い、27人が参加。	
		□入場者数	再掲	687人(再掲)	B	□入場者数の目標達成率98%(2-(1)-(イ)参照)	
		(イ)横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業 ●学校プログラム □アウトリーチ学校数	8校	8校	B	□計8校で実施しました。 ・10/4,5,6 東山田小 外山香(箏) ・10/25,27,29 下和泉小 池田正博(民族音楽) ・11/17 北綱島特別支援学校 池田正博、douni douni(民族音楽) ・11/29,30 藤田小 外山香(箏)※教育PF外で実施 ・1/14 上川井小 池田正博(民族音楽) ・1/18,19,20 伊勢山小 伶楽舎(雅楽) ・1/24,25,26 横浜深谷台小 外山香(箏) ・2/14,16,18 朝比奈小 池田正博(民族音楽)	
(5)政策目標(事業) 音楽文化の持つ可能性、文化芸術の持つ社会的な力を活かし、地域社会に貢献する	地域コミュニティに活力をもたらす事業や、街の賑わい創りに貢献する事業、ホールへの来訪が難しい方々に音楽の魅力を直接伝える事業、アーティストが企画や制作に関わる事業などを実施。市民やアーティストの横浜への愛着を育むとともに、リニューアル後の横浜みなとみらいホールへの期待感を高めます。	(ア)小学校におけるアウトリーチ事業 ●学校プログラム ※再掲 ■例年より多くの学校で展開する	再掲	8校(再掲)	B	■長期休館を好機ととらえ、例年より多くの学校で展開しました(計8校)。2-(4)-(イ)参照	【成果】 令和4年度に本格的に事業展開する「プロデューサーinレジデンス」について、第1期のアーティスト・プロデューサーとして藤木大地が就任し、横浜みなとみらいホールをとりまく状況や現在取り組んでいる事業を交えた、今後の企画検討を進めました。大学連携や他都市との連携も視野に、様々な企画を模索しています。リニューアル後の横浜みなとみらいホールを大きく打ち出せるようアーティスト・プロデューサーとともに、よりいっそう推し進めていきます。 【課題】 次年度は、アーティスト・プロデューサーやホールオルガニストのプロデュースする事業を実際実施していくことになるので、着実に準備を進めます。
		●横浜18区コンサート(2年計画) ※再掲 ■各区地域振興課、区民文化センター等と連携した公演実施	再掲	10区実施(再掲)	B	■各区の後援を得て、10区で実施しました(2-(1)-(ア)参照)。	
		(イ)横浜音楽祭2022準備 ●プロデューサー in レジデンス ■アーティストが企画からプロデュースまでを担う独自プロジェクトを始動させる □プロデューサー(アーティスト)選定	1人	1名選定、就任	B	□プロデューサー 2021-2023 として藤木大地(カウンターテナー)を選定、発表しました。	
		「パイプオルガンと横浜の街」※再掲 ●ネットワークの維持 ■オルガン担当者ミーティング実施 ●リニューアル後の展開を検討 ■次期ホールオルガニストとの連絡調整	実施	実施	-	■次期ホールオルガニストとして近藤岳を選定、発表するとともに、リニューアル後のオルガン事業展開などについて定期的に協議しました。	
(6)政策目標(事業) ホールにおいて蓄積された音楽に関する情報やネットワーク、ノウハウを活かし、市民の音楽活動を支援する	公演のアーカイブ映像や、昨年度中までに収録してきた動画配信等によりホールの存在をアピールする	(ア)アーカイブ配信 □動画コンテンツ数	10件	42件	A	□新規コンテンツ 計42件 ・横浜WEBステージ33件 ・とっておきアーカイブシリーズ2件 ・パイプオルガンと横浜の街関連2件 ・Just Composed 2022 Spring in Yokohama -現代作曲家シリーズ- 関連5件	【成果】 公演のアーカイブ映像を2件配信したほか、「横浜WEBステージ」では、今年度新規に33コンテンツを配信しました。また、中学生プロデューサーの活動状況を紹介する活動日誌の定期的な配信や、公演の振り返りブログなど、横浜みなとみらいホールが休館中でも活動していることをアピールすることに努めました。また「横浜18区コンサート」関連では、“あなたの見つけた横浜18区 ハッシュタグキャンペーン”を実施し、あらためて地域に目を向けていただく機会となりました。 【課題】 配信を見据えて、各事業のアーカイブを進めていきます。
		(イ)休館中取組の発信 ●「こどもの日コンサート」 ■中学生プロデューサー ブログの配信 ●「横浜18区コンサート」 ■地域連携状況発信	実施	実施	-	■中学生プロデューサー ブログの配信 ・第Ⅰ期5回、第Ⅱ期3回	

令和3年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
3 施設運営 (1)政策目標(運営) 利用者のニーズや利便性に考慮し、柔軟に対応することにより、施設の機能を最大限に発揮する	再開館後に利用者のニーズに応えられる運営を行う	(ア)再開館後の施設運営について変更案を作成し、横浜市と協議を進める ■第3期における施設運営方針策定 ・ホール利用受付方法 ・ホール利用調整会の運用 ・利用料金(附帯設備利用料) ・レセプション運営 ・公演運営方法(演奏会の記録など) ■再開後の利用受付業務を開始する	実施	実施	-	■第3期における施設運営の各項目について、方針を策定しました。 ■利用再開に向けた情報を公開し、再開後の利用受付業務を開始しました。	【成果】 (ア)施設運営方針、利用受付再開 利用受付はメール・郵送に絞り、非対面を実現しました。再開館した直後の11月・12月については、大小ホールとも利用率100%を達成しました。 レセプション運営は公演マネージャーを新たに設定し、臨時職員就業規程を改訂して新体制に対応しました。 (イ)利用要綱等改訂 利用要綱改訂を行い、R4.4よりレセプションルームの割引料金を設定しました。 (ウ)施設予約管理システム WEBシステムを設計し、来年度夏にWEB抽選申込とWEB練習室予約ができるよう開発を進めています。 【課題】 (ア)施設運営方針、利用受付再開 再開館後は非対面継続が難しいので、抽選会のみ非対面開催などコロナ感染状況を踏まえた利用受付を検討します。 年が明けた1月以降の利用率が85~90%と昨年より低いため、(減少が一時的でないときは)原因の究明と対策を取る必要があります。 (イ)利用要綱等改訂 割引が適用されるとレセプションルーム1日あたり約12万円減額されるので、利用料金収入の確保が課題となります。 (ウ)施設予約管理システム WEBシステムのR4年度本稼働に向けて、しっかりテストを行いできるだけ不具合を減らすことが求められます。	【評価できる点】 長期休館中に利用受付体制の整理・見直しやWEB予約システム構築など、利用者の利便性向上のための取組を進めました。 予約については、利用者が施設に行く手間を減らすことができ、大きく改善したと考えています。 広報・プロモーションとして、Twitterの活用及びウェブサイト改修の各デバイス対応は、発信力強化及び利便性向上の取組として評価します。 【更なる取組を期待する点】 広報・宣伝において、報道機関や関係媒体への情報発信は、多く行われていると思います。内容やターゲットに応じた重点的な発信など、効果的な広報・宣伝を行うことを期待します。 難しいことかと思いますが、事業の特に伝えたいことをピックアップする、紙面が情報過多にならないようにするなど、より事業の魅力を引き出すのも広報・宣伝の役割と考えますので、効果的な手法、紙面作成の検討をお願いします。
		(イ)利用要綱等改訂 ■利用要綱改訂 ■施設運営マニュアル改訂 ■施設利用案内作成	実施	実施	-	■利用要綱を令和4年4月改定に向けて準備しました。施設運営マニュアル、施設利用案内を順次改定しました。		
		(ウ)施設管理システム改訂 ■施設管理システム改訂 ■ウェブサイト機能追加(オンライン化) ・練習室利用受付 ・大小ホール空情報照会 ・利用受付、利用打合せ	実施	実施	-	■施設管理システムの改訂を行いました。 ■ウェブサイト機能追加については、大小ホール抽選会と利用受付は対応済み。練習室利用受付機能を令和4年8月公開予定。		
	質の高いサービスを安定的に提供する。	(エ)レセプション運営変更 ■レセプション用マニュアル改訂 ■レセプション採用計画策定 ■レセプション研修計画策定 ■レセプション採用要項作成 ■採用準備 (オ)その他運営変更 ■託児サービス、ドリンクサービス運営等について運営課題を洗い出し、施設運営マニュアルに反映	実施	実施	-	■募集要項等を作成し、再開館時のレセプション採用に向けた準備を行いました。 ■再開館に向けて検討しました(令和4年度も継続検討)。		
(2)政策目標(運営) 日本を代表するとともに、市民に身近で愛されるコンサートホールとしてのサービスとホスピタリティを提供する	音楽専門ホールとしての特性を前提としつつ利用促進に取組む。—長期休館中の取組—	(ア)利用促進 ■休館中のため、なし	0件	—	—	■利用再開に向けた準備を行いました。(3-(1)-(ア)~(ウ)参照)	【成果】 ホール仮事務所にチケットセンターを設置し、主催公演のチケット販売と問い合わせ対応を適切に実施しました。 【課題】 開館後の状況をみて判断します。	
		□利用率 ・大ホール	0%	—	—			
		・小ホール	0%	—	—			
		・リハーサル室	0%	—	—			
		・レセプションルーム	0%	—	—			
		・音楽練習室	0%	—	—			
	利用者のニーズ、満足度等を把握し分析を行い、事業の企画や運営の改善をする。	(イ)満足度の高い運営 ■休館中のため、レセプション対応なし	なし	なし	—	■休館中のため実施せず。リニューアル後のレセプション募集準備を行いました(3-(1)-(エ)参照)。		
	利用下見だけでなく、利用を検討される方のため下見にも柔軟に対応	(ウ)施設見学・利用下見対応 ■休館中のため対応なし	なし	なし	—	■休館中のため実施せず。		
	ホールの発信性を高め、音楽文化の振興に寄与する商品をショップ等で販売	(エ)ホールと横浜の魅力を発信する物販 ■休館中のため対応なし	なし	なし	—	■休館中のため実施せず。		
	問合せ窓口・ホールチケットセンターを貸事務所内に設置	(オ)問合せ相談・チケットセンター窓口 ■丁寧に正確な対応を実施する □月~木曜 11:00~16:00	実施	実施	—	■目標通り実施、継続しました。		
大小ホールのドリンクコーナーにおいて、主催者の求めに応じ公演開催時に飲料等の飲食サービスを提供できる体制を提供	(カ)ドリンクコーナー ■休館中のため対応なし	なし	なし	—	■休館中のため実施せず。			
託児サービスの提供	(キ)託児サービス ■事業によって設置する場合はHP等で周知	実施	なし	—	■実施せず。			

令和3年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表

計画項目:☆ 完了項目:★ 変更項目:!

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
(3)政策目標(広報・宣伝事業) プロモーションの充実	【プロモーションの効率的・戦略的取り組み】 適切な商圏・対象層の設定、媒体の選択を行い、効率的・戦略的プロモーションに取り組む。	(ア)広報プロモーション ホールブランドの確立に向け、差別化を図るためコンセプトを定める ■ホールコンセプトの策定	実施	実施 (公開R4年4月)	-	■ホールコンセプト及びシンボルマークについて、目標通り策定しました(1-(1)-(ア)参照)。 □メールマガジン配信 25回 □フォロワー数の目標達成率 112%	【成果】 横浜みなとみらいホールの魅力、独自の価値を分かりやすく表現し発信することを目指してグループを横断する「コンセプトメイキング・プロジェクト」を立ち上げ、コンセプトの策定に漕ぎつけることができました。 シンボルマークについてはデザインコンペを実施し、上記コンセプトを表すシンボルマークを策定、コンセプトとともに発表(2022/04/01)、リニューアルオープンに向けてPR強化を進めています。 Twitterフォロワー数は休館中の取組を丁寧に発信し、目標の8,000名を約1,000名上回り躍進しました。 公式ウェブサイトのリニューアルに向けて更新を進め、課題となっていたタブレット対応、英語サイトの充実を実現しました。 顧客拡大を目指して有料会員から無料ウェブ会員制度へ移行を進めました。 【課題】 ホールのプレゼンス向上に向けた発信力の強化と、新たな顧客開発につながる効果的なプロモーションに継続的に取り組む必要があります。	
		ホールのイメージを統一的に発信するため、ログタイプシンボルマークを策定する ■ロゴ・シンボルマークの作成	実施	実施 (公開R4年4月)	-			
		メールマガジンでの情報発信 □配信数	年10回	年25回	A			
		ツイッターフォロワー数の維持 □フォロワー数	8,000人	8,985人	A			
	【WEBを活用したプロモーション】 WEBツールを活用し、施設案内や公演情報だけでなく利用者が必要とする様々な情報を、見やすく使いやすい形で提供する。	(イ)公式ウェブサイトのリニューアル ・動画視聴できるよう、モバイル対応を実現 ・施設管理システムと連携した機能を搭載 ■改訂業務のプロポーザル実施	実施	実施	-	■ウェブサイトのリニューアルについて目標通りプロポーザルを実施、改定、設計業務を実施しました。令和4年4月に公開します。		
		■ウェブサイト設計の実施	実施	実施 (公開R4年4月)	-			
		友の会組織のウェブ会員への移行	(ウ)友の会組織のウェブ移行 「みらいすとクラブ」からウェブ会員組織へのスムーズな移行を実現する □ウェブ会員への移行者	800人	610人 随時移行中			C
		ウェブ会員サービスの検討 ■会員組織運営要綱を作成	実施	実施	-	□これまでの「みらいすとクラブ」から随時移行中。 ■新たな会員組織として「ウェブフレンズ」を立ち上げ、会員規約とプライバシーポリシーを策定、3/24より募集を開始しました。引き続き既存会員の移行、及び新規会員の登録獲得に努めます。		
	(4)条例の遵守	リニューアルオープンに向けて大小ホールの新規予約を開始	(ア)施設予約開始 ■大ホール:2022年5月分から予約受付 ■小ホール:2022年11月分から予約受付	実施	実施	-		■目標通り実施しました。
			■感染症拡大防止をはかるため、郵送やメールで新規予約を受付	実施	実施	-		
利用料金等		■条例に基づいた、適切な料金徴収。	実施	実施	-			

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

令和3年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
4 施設維持管理 政策目標(施設維持管理) 快適な環境を維持するとともに、安全かつ安心して利用できる施設保全	長期休館中の管理	(ア)長期休館中の管理 <input type="checkbox"/> 過失事故	0件	0件	B	<input type="checkbox"/> 過失事故0件 <input checked="" type="checkbox"/> 各種業務仕様については、令和4年度、事務所移転及び再開館後の状況を反映し、令和5年度以降の仕様を確定します。	【成果】 工事中の管理は行っていないため、工事総合定例会議やQSY管理組合事務局会議に出席し、情報収集に務めました。仮事務所については、随時法定点検や環境維持業務を実施、毎月の作業計画・報告を受け、執行状況を確認しました。また、ネズミ対策の全館点検と防除等、必要な作業を実施しました。 【課題】 横浜市との連携を密にはかり、大規模改修工事の進捗や内容を把握し、リニューアル後の施設管理業務の準備を着実に進めます。また、事務所移転についても、利用者の不便を最小限にとどめるよう、適切な計画を作成します。	【評価できる点】 長期休館中であるため、仮事務所の維持管理を適切に行いました。 【更なる取組を期待する点】 大規模改修工事においては、事業の進捗に合わせ、施設運営者である指定管理者の確認事項も多く発生します。ホールの運営者として確認、調整など各対応をお願いします。
		大規模改修による休館中のピアノ移転やパイプオルガンにかかる作業について、横浜市等と適切に調整を行う	通年実施	通年実施	-			
		再開に向け委託業務の課題を洗い出し、適切な業務内容に仕様改訂 <input checked="" type="checkbox"/> 警備業務仕様書 <input checked="" type="checkbox"/> 設備業務仕様書 <input checked="" type="checkbox"/> 清掃業務仕様書	実施	R4年度検討継続	-			
		情報交換を密にはかり、大規模修繕関係各所との協力・調整をはかる	通年実施	通年実施	-			
	施設維持管理業務	横浜市による大規模修繕に協力し、再開後の点検・定期整備事項について、情報収集を行う <input type="checkbox"/> 定例会議参加	月1回	月1回	B	<input type="checkbox"/> 工事総合定例会議、およびQSY管理組合事務局会議に出席、館内で情報共有しました。 <input type="checkbox"/> 仮事務所の施設管理業務について、適切に専門業者に委託しました。		
		QSY管理組合事務局会議、管理打合せ等に参加し、周辺との連携を図る。 <input type="checkbox"/> QSY管理組合	月1回	月1回	B			
		仮事務所における施設管理業務(設備管理・清掃管理)を専門業者に委託	実施	実施	-			
	環境維持管理業務	法令等に基づき、適正な施設維持管理に努める <input type="checkbox"/> 空気環境測定	年6回	年6回	B	<input type="checkbox"/> 仮事務所の環境維持業務について、関係法令及び業務の基準に基づき、適切に実施しました。		
		<input type="checkbox"/> 照度測定	年1回	工事中につき未実施	-			
		<input checked="" type="checkbox"/> ごみ分別の徹底	実施	実施	-			
	保安警備業務	●保安警備業務を適切に行う <input type="checkbox"/> 過失事故件数	0件	0件	B	<input type="checkbox"/> 過失事故0件		
	駐車場・搬入口管理業務	業務の基準に基づき駐車場利用者等の安全確保に努める <input type="checkbox"/> 過失事故件数	0件	0件	B	<input type="checkbox"/> 過失事故0件 <input checked="" type="checkbox"/> 改修工事に必要な駐車場の借上げを適切に実施しました。		
		<input checked="" type="checkbox"/> 改修工事に必要な駐車場の借上げ	実施	実施	-			
	6階屋上庭園の取り扱い	<input type="checkbox"/> 植栽の手入れ(専門業者への委託)	年数回	工事中につき未実施	-	<input type="checkbox"/> 工事中につき実施せず。		
	防災等	地域全体の防災関連情報を共有 <input checked="" type="checkbox"/> QSY防火防災管理協議会 会議参加	実施	工事中につき未実施	-	<input checked="" type="checkbox"/> 工事中につきQSY防火防災管理協議会会議には参加せず。 <input type="checkbox"/> 仮事務所の消防設備点検を2回実施、不具合箇所については修繕を行いました。 <input type="checkbox"/> 消防訓練については、仮事務所としての訓練を横浜美術館、トリエンナーレ組織委員会事務局と合同で1回実施しました。		
	<input type="checkbox"/> 防災管理自主点検	年2回	工事中につき未実施	-				
	<input type="checkbox"/> 防災設備点検	年1回	年2回(仮事務所)	B				
	<input type="checkbox"/> 消防訓練・防災訓練	年1回	年1回(仮事務所)	B				
緊急時の対応	緊急時の対応を周知する <input checked="" type="checkbox"/> 防災マニュアル、危機管理マニュアル	実施	実施	-	<input checked="" type="checkbox"/> PLOT 48として危機管理マニュアルを策定しました。			
	<input checked="" type="checkbox"/> 緊急時の救急要請、事故報告を速やかに行うとともに、スタッフへの周知を徹底する	実施	実施	-	<input checked="" type="checkbox"/> 救急搬送、事故報告0件。			
有資格者の配置	<input checked="" type="checkbox"/> 電気主任技術者(委託) <input checked="" type="checkbox"/> 建築物環境衛生管理技術者(委託) <input checked="" type="checkbox"/> 無線従事者 <input type="checkbox"/> 2名配置 <input checked="" type="checkbox"/> 甲種防火管理者及び防災管理者 <input type="checkbox"/> 防火・防災管理者 職員1名配置	実施	実施	-	<input type="checkbox"/> 関係法令及び業務の基準に基づき、適切に配置しました。横浜美術館経営管理グループ長が、PLOT 48の防火・防災管理者となりました。			

令和3年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価	
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価
5 その他 政策協働型指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現します。	政策経営協議会の開催	■政策経営協議会の実施	実施	実施	-	■年間2回実施しました。	【成果】 新型コロナウイルス感染症や、大規模改修工事に関する相談、情報交換、仮事務所管理、事務所再移転など、政策経営協議会やモニタリング時以外でも、横浜市との連絡を密にはかりました。 【課題】 引き続き、大規模改修工事やリニューアルのスケジュール、リニューアル後の運営など、横浜市との情報共有等が必要です。
	計画の策定及び業務報告	●モニタリング実施。 □原則月1回	原則月1回	原則月1回	B	□原則月1回実施しました。	
		■モニタリング時の情報交換を密にし、次年度の計画につなげる。	実施	実施	-	■適切に情報交換を行いました。	
	業務評価	□自己評価・横浜市評価	実施	実施	-	□自己評価及び行政評価について目標通り実施しました。	
		■指定管理者選定評価委員会による外部評価、業務視察、ヒアリング実施。	実施	実施	-		
6 収支 収支計画	収入(収入向上及び外部資金導入の努力)	●ファンドレイジング活動の推進 □企業協賛金・助成金獲得	5,000千円	¥16,572,000	A	□文化庁「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」に採択され、目標を上回る実績を上げました。 ■電子帳簿保存法に対応、ペーパーレス化を図るために、財団全体で業務システム導入を行いました。	【成果】 長期休館中においても、文化庁支援事業に採択され、積極的に事業を実施しました。 【課題】 文化庁支援事業については、安定的支援が得られるよう検討を進めます。また今後は、コンサートホールの社会的な存在意義をアピールし、市民や企業等に広くご支援いただける関係の構築が必要です。
	支出(適切な支出配分、コスト削減への努力)	■廃棄物の発生量削減に努め、廃棄に要するコスト削減	実施	実施	-		
7 組織 組織	明確な責任体制の構築	□グループ長会議 毎週開催	実施	実施	-	□目標通り実施しました。	【成果】 新井館長のもと、事業企画部門と管理運営部門が連携し、高い専門性をもってリニューアル記念事業を計画するとともに、チケットセンターやレセプション等を含めた施設管理・運営の全体像を立案できる人員配置としました。 【課題】 引き続き、施設・設備の更新に応じた運営変更などに留意し、情報収集に努めます。また専門性の維持向上のため、積極的に研修等の機会を確保します。
		□企画運営会議 毎週開催	実施	実施	-	□目標通り実施しました。	
	専門人材の確保と高い専門性を発揮できる組織	■各専門性に応じた適正な人員配置 ■再開後の運営体制を企画立案できる人材の配置	館長1(非常勤)、総支配人1、G長2、TL3、担L2、職員8、アルバイト3、受付スタッフ	目標通り配置	目標通り配置	-	
		■仮事務所の営業時間 平日10:00-17:00 チケットセンター 月～木曜11:00-16:00 ■主催事業やホール利用状況に応じて出勤職員及び人数を決定	実施	実施	-	□目標通りチケットセンターを開設しました。 □仮事務所での利用者対応についても、電話、メール等で適切に行いました。	
人材育成		●MBOによるOJTの積極的な実施。 ■MBOの目標設定、中間・期末評価において、各自の業務の進行確認を推進し、評価のフィードバックを適切に行う	実施	実施	-	■目標通り実施しました。 ■財団内部の階層別研修、専門人材研修に加え、コロナ禍以降普及したウェビナー等外部研修への参加を促進しました。また、事業企画グループ職員が神奈川フィルへの人材派遣研修に参加(6/1～12/31)、専門性向上とネットワーク強化に努めました。	【評価できる点】 長期休館中の体制、リニューアルに向けた体制を整え、準備を進めたことを評価します。 また、人材育成において外部研修などの活用を評価します。 【更なる取組を期待する点】 横の連携や全体動向を意識し、より良い運営体制の構築を期待します。
		□新規配属職員への個人情報研修	年1回	年2回	A		
		●事務局研修への参加 ■事務局研修に積極的に参加できる体制構築	実施	実施	-		

令和3年度 横浜みなとみらいホール 指定管理者業務評価表

計画項目:☆ 完了項目:★ 変更項目:!

※実績のチェック欄(数値目標のみ記載)について:目標に対し+10%超の実績→「A」、目標に対し±10%内の実績→「B」、目標に対し-10%を下回る実績→「C」

評価項目		令和3年度計画		実施状況		評価		
項目	目標の実践	達成指標	目標	実績	説明	自己評価	行政評価	
8 留意事項 保険及び損害賠償の取扱い		■業務の基準に定められた内容で保険に加入する。(施設賠償責任者保険、動産総合保険、レジャーサービス費用保険)	実施	実施	-	■業務の基準に基づき、適切に加入しました。 ■保険の適応は0件でした。	【成果】 業務の基準に基づき、適切に保険加入しました。 【課題】 保険の適用の有無に関わらず、事故のない運営に努めます。	/
		■保険対応が必要な案件があった場合には速やかに対応。	実施	対応なし	-			
法令の遵守と個人情報保護		■公の管理者としての法令遵守 ■個人情報取扱いマニュアルの周知徹底	実施	実施	-	■関係法令及び業務の基準に基づき、適切に対処しました。	【成果】 個人情報取扱マニュアルを配布するとともに、新配属者に対する研修を実施しました。また財団全体で導入しているマイナンバー管理システムを適切に運用しました。 【課題】 委託先についても、個人情報の取扱・管理について周知を徹底します。	
		■マイナンバー制度事務取扱手順の徹底と事故防止	実施	実施	-			
情報公開への積極的取組		■公の施設の管理者として説明責任を果たす観点から、横浜市、財団事務局との連携をはかり、情報公開を行う。	実施	実施	-	■関係法令及び業務の基準に基づき、適切に対処しました。 ■令和3年度における情報公開請求はありませんでした。	【成果】 情報公開請求はありませんでしたが、請求時の体制は適切に整えています。 【課題】 引き続き、請求のあった場合に速やかに公開できるよう体制を整えます。	
市及び関係機関等との連絡調整		■横浜市(政策協議会含む)や関連機関との情報共有 ■日頃の連携をはかり、報告等速やかに実施	実施	実施	-	■横浜市及び関係機関との連絡、報告等適切に実施しました。	【成果】 電子メール等により、日常的に情報共有を行っています。 【課題】 リニューアルオープンに向けて、より密に連携を深めます。	

評価項目	令和3年度計画	実施状況	評価
	達成指標	説明	自己評価 行政評価
総括	/	/	<p>【成果】 大規模改修工事に伴う長期休館期間中となった令和3年度は、新型コロナの感染防止を図りながら横浜18区コンサートをはじめとして市内各所で事業を展開し、「豊かな「音楽社会」を拓くコンサートホール」としての存在感を示し続けるとともに、横浜WEBステージのコンテンツやSNSを活用した積極的な情報発信によりリニューアルオープンへの期待を高めることができました。 また、リニューアルオープン後の円滑な館の運営に向け、貸館業務において利用者の利便性を向上させるシステム改良、来場者サービスを強化するレセプション制度の見直し、館の応援者を増やす新しい友の会の制度設計など広範に渡り着々と準備を進めています。 みなとみらい21地区内に集積しつつある音楽施設や企業の研究開発部門との関係構築を図るべく「みなとみらい21ミュージックシティ推進検討会」に継続的に参加し、今後の方向性について協議を進めたほか、令和4年度からスタートする「みなとみらいSTREET MUSIC」において出演応募者の審査に協力するなど、実質的な貢献も果たしました。</p> <p>【課題】 休館中に築いた新たな顧客との関係を、リニューアルオープン後も維持強化する仕組みを継続的に開発、展開していくことが必要だと考えます。</p>